

入念な準備のその先に…

ながれ

山田 恵 (やまだ めぐみ/元インターン生、東京都在住)

昨年に続き、今年もお声がけ頂いた際、あっという間に一年が過ぎたという育児中の我が身の感覚と、子供の成長の様子から、しっかり時を刻んできたんだなあ…という感覚の両方を持ち合わせていることに気づきました。

5月中旬に、息子を6泊7日のサマースクールに参加させる事を決意。親元を離れての宿泊経験も無い年中児(4歳)の息子を6泊という、年齢を考えると長いと思われる宿泊イベントに参加させることに心配と不安でいっぱい。しかし、それ以上に、確実に成長し一回りも二回りも心身ともに大きくなって帰ってくると信じ、子離れの良い機会とも捉え、決断。初めての人や物事に対して慎重になる息子に、サマースクールへの参加をどう伝え、どう準備していくかは夫婦にとっての一大課題となり、何度も相談し、入念に準備しました。

まずは、本人に伝えるタイミングや方法を検討。次に、去年の様子をカラープリントして壁に貼りつけ、いざ伝達の時を迎えました。息子の第一声、「パパもママも行くの?」と、私の中で、(やっぱりそれ聴きたいよね…)、想定通りの反応で、息子らしい、一番気になり、一番不安に思ったことだったので。親は留守番と説明すると、理解したようで、壁に貼られた去年の様子を色々シミュレーションするかのように、食い入るように見ていました。

その後、毎日少しずつ持ち物を一緒に準備。つつい手をかけてしまいがちですが、「子供には不親切くらいが丁度良い」を胸に、洋服、パジャマ、バスタオル、水着、下着など、どれを持参するか全て息子に選ばせました。日頃から重視している「自分で選ぶ」は、選

択したものに対する気持ちの強さやモチベーション維持への効果があります。例えば、自分で決めた遊びへの集中度や終了時間になった時の気持ちの切り替えの早さは目を見張るものがあります。

丁寧に準備の日々を重ねてきたことが功を奏し、今では、すっかりサマースクールへの期待が膨らんできたようで、幼稚園の友達が参加しないことに対して、「何で行かないのかね?」という程に(笑)。

準備の重要性は、15年以上のキャリアを通じて、仕事でも痛感。後輩指導でも、「伝える」ではなく、「伝わる」ように創意工夫し、準備して接することで、加速度的に成長します。環境問題への対応も、現世代が将来世代の為の準備だと一人ひとりが意識出来れば、入念に準備するようになるでしょう。そして、その対応は一朝一夕のものではない事を心に刻む必要も…。環境対応は、準備すること自体がゴールではなく、持続可能な活動を実践する為のスタート地点に立つことに過ぎません。今からでは遅いのでは…ではなく、自分事と捉えてスタートを切ることが重要です。

息子にとって、今回のサマースクールは、これからの成長に向けたスタートです。この会報がお手元に届く頃には、息子はサマースクールから戻って来ています。どのような変化が見られたかについて、またご報告の機会があれば幸いです。



サマースクールの荷物を詰め込んだリュックサック
(この荷物以上に沢山の思い出を作ってくれることを願いながら…)